

平成 29 年度 第 4 回 男女平等推進市民会議 会議要録

日 時：平成 30 年 2 月 21 日（火）19:00～20:15

会 場：庁議室

参加者：名取はにわ会長・斎藤利之副会長・本田純委員・佐賀律子委員・森山義雄委員・
柘植宏美委員

事務局：生活文化課長・男女共同参画係長・男女共同参画係員

○議題

- (1) 平成 29 年度第 3 回男女平等推進市民会議 会議要録（案）について
- (2) 東久留米市第 3 次男女平等推進プランの評価方法について
- (3) その他

・議題 (1) 平成 29 年度第 3 回男女平等推進市民会議 会議要録（案）について

～異議なし～

・議題 (2) 東久留米市第 3 次男女平等推進プランの評価方法について

会 長：それでは、東久留米市第 3 次男女平等推進プランの評価方法について、事務局よりご説明をお願いしたい。

事 務 局：これまでの進捗状況評価の中でご意見を頂き、それらをもとに事務局案を考えてみた。まず、資料 2 について、第 3 次プランの体系表を並べたものになっている。こちらは、プランを引っ張ってきた形になっているが、これまでは事業を課別で見ていったので評価数も多く煩雑で、各課の取組みのつながりが分かりにくかった。それが分かりやすくなればということに着目して案を考えた。資料 2 から 3 について、これは評価する際の単位を示している。第 3 次プランの目標、施策とあり、それに対する取組みの方向性と続き、そこに各課の事業がぶら下がっている形になっている。これまでの評価では、取組みの方向に加えて担当課別に評価をしていたが、ひとくくりにまとめて 1 つの評価をしていくという形にしたいと考えている。従って、評価の数としては全部で 45 となる。資料 4 に様式がついているので、こちらを参照頂きたい。これまではひとつの評価に対して実績報告と評価という形だったが、案では章立てにして、実績報告を行う章と課題を書く章と、冊子にした場合だが、市民会議からの報告の章ということにしたいと考えている。

～資料 3 を様式 1、2、3 に当てはめて読み上げ～

- 会 長：様式のことでは質問があればお願いしたい。
- 会 長：様式 1 と 3 はそれぞれ取り組みの方向性ということになっているが、様式 2 はどういうものか。これはそれぞれの方向性について、それぞれの課が何か考えるということか。
- 事務局：「取り組みの方向」を頭にして様式 1、2 をつなげて載せる形にしたいと考えている。
- 会 長：では、実績報告、担当課、事業番号、取り組み状況、担当課の評価、今後の課題、次年度の方向性・目標、数値目標というように読むということか。
- 事務局：そのようになる。本来は横に書いていってもよいが、従来のものが次が小さかったので、できれば A4 サイズで作成したいということでこのような形に分けたので、横一列に書くこともやり方としてはあると思う。
- 委 員：担当課は、事業単位で評価をしてくる。
- 事務局：事業はここに幾つか番号が載ってきて、対応する事業の内容が書いてあるが、それに対して各課でも同じ取り組みが 2 つの事業にまたがっていることもあって、同じようなのが何回も出てきてわかりづらいということもあった。そこはまとめて書いてもらう形で。
- 委 員：各課から来たものは事務局で 1 つにまとめるということか。
- 事務局：なので、ここに課名が入って、事業番号は振っていて、自分の課のところを埋めていただくような形になる。今までは課別でシートになっていたが、1 枚の紙で見られるようにしたのは、同じ方向に取り組んでいる課が、1 枚にまとまったものを見ることで、他課がやっている取り組みを見てももらう機会をつくるということをやっている。
- 会 長：最初に様式 1 で実績報告があって、最初にこれは取り組みの方向って大きな見出しがあるということか。それぞれの課の番号について今後の課題と方向性を各課が全部出してきてくれて、それでその方向性について私たちはその評価がいいのかどうなのかというように講評・提言をするというようなことか。
- 事務局：そのようになる。
- 会 長：要するに取り組みの方向が今度は一番大事になってきて、イメージとして複数の課が同じ方向を向きながらやっていることについて、私たちはそれを見ながら、連携して欲しいとか、そういうことを言うことになる。
- 委 員：課ごとに見ていくか、その取り組みがあって、そこから見ていくかだけかの問題なので、多分どちらでも一長一短ではないか。1 回これをやってみて、具合が悪かったらまた戻せばよい。
- 委 員：これまで、この視点では A、この視点では B、この視点では C で、トータルで B というような評価をしていたが、一発評価で A、B、C という形になってしまうということか。

- 事務局：これまでは、現状や課題を把握しているか、今後の取り組みが書けているかという小項目があったが、幾つかの課をまとめて評価いただくことになると、つけづらいと思うので、1個というように考えている。
- 委員：懸念しているのは、我々が評価をするときに各項目があって、A、B、Cがあって、もう1回総合評価があるのは、ある意味非常にスピーディーにもできたが、これも評価するとなると、我々がここの提言・講評を書き込んで議論しないといけない。書き込んで評価するとなると、こちら側の負担は非常に多くなるように思われる。
- 会長：それに、今までは頑張っている課と、そうでないところがあり、頑張っている課はAをつけて、そうでない課はCをつけるというようなことがあった。今後、同様なことも絶対あるはずだ。各課がそれぞれ施策を自己評価したものに対して、私たちが評価するというのが楽でよい。それ以上になると、日々の仕事を見ているわけではないから難しい。それは、文言がうまく書いてあるのを評価するかとか、多分とともずれてしまうのではないかと。だから、最初の様式1に、この担当課の評価の次に、私たちが評価を入れさせてもらえば、今と同じになる。
- 委員：これだと方向性ということで評価するということか。それで、その中でいろいろな課が絡んでいて、今までは表彰ができたわけだが。
- 会長：方向性で評価するということはできない。
- 委員：方向性がAになったということは、全ての課がAで並んだときにAだから、その3課を方向性Aで表彰するので、中身の関連している課は全て表彰という形に今度はなる。
- 会長：だから、Aでないところが1個でもあれば、表彰しづらいということになる。
- 事務局：ここは事務局としてこだわっているところではなく、個数を減らしたほうがよいのかと思ったのでこういう形にしてある。もし、やりやすいということであれば、評価自体をわけるというのも可能。
- 委員：ただ、事業ごとだと以前と同じで、担当課も負担がかなり大きいし、評価も負担が大きいので、取り組みの方向でまとめるということであれば、課ごとに分けることもあってもよいかもしれない。様式3を課ごとに分ければよい。
- 委員：事業ごとにやると数が膨大になるので、取り組みの方向性としてまとめるのはいいけれども、それは課ごとに取り組みの方向性で評価するというほうがよいかもしれない。
- 委員：評価の数は減るかもしれないけれども、我々の手間はかかる。
- 会長：今までも私たちはよく議論していて、実態がよくわからない。各課の仕事の内容が。実態をよく知らないで、その方向性を評価するというのは難しいことだ。
- 事務局：しかし、評価のしやすさということであれば、先ほどのご意見のように評価をつける数は増えてしまうと思が、そのほうがよいということであればそうした

い。評価のところ、様式1と様式2と同じくくりで1個ずつ評価をいただくような形で。

委員：前回までの評価の仕方の中で、混乱を呼んでいたのが視点だった。この視点とこの視点が加味された報告書になっていますかというよう。あれが非常に混乱していたので、これはそこを全部なくしたということか。

事務局：視点については、やはり5個なりという視点で全ての事業を見ていくのは少々厳しいなというところ。案としては出していないが、もちろん入れたほうがよければ可能。要は取り組みの方向のところの様式1のところには、取り組みの内容も大きめにとってあるが、ここのどういうことを目標としてやっているのかというのを、プランからそのまま引っ張ってきて書くような形を考えている。

委員：報告に載せるか載せないかは別として、例えば作業シートみたいな形で、項目評価をつけられるシートをつけて、そこに皆が評価をしながら総合的な評価だけ報告するというやり方もあるかなと思う。

会長：どういう形にするか難しいが。

委員：ただ、確かに、例えばA、B、Cだけだったら何か曖昧になってしまう。

事務局：でも、今の課ごとのくくりで評価をしていただくのであれば、小項目も設けるのは可能だと思うので、そこはこれまでの形で。

委員：事業はまとめるけれども、評価の項目としては同じものをまた使っていくということもできるのではないか。課ごとになるということは、やはり様式1とこちらの様式3が一緒になるだろう。

事務局：そうなる。それで、先ほどのところで課ごとに評価ということなので、様式1と様式2と様式3はほぼ同じ並びになる。

会長：確かに、例えばその3の1というので、「固定的な性別役割分担意識解消への啓発」で、生活文化課と生涯学習課があって、多分こういうものは総合評価がすごく難しいと思う。なぜなら生活文化課は男女共同参画を担当しているところだし、生涯学習課は教育委員会に属する部署だし、それを丸めて評価するというのは難しい。やはり課ごとの評価みたいなものは残したほうがよい。

事務局：では、評価は課ごとで、講評・提言のところも多分各課ということもあるとは思いますが、総合的なところで、「連携」であるとかそういうところは見せていけるといいなと思っている。そこで例えば取り組みの方向、総合的なところの講評・提言と、各課の個別のものをつくっていくというのはどうでしょうか。

会長：それはよいと思う。

事務局：では、ここのところで講評・提言を設けて、ここに課別の様式1と対応している評価欄をつけておくということで。それと小項目について、各課の小項目評価はあったほうがよいか。今までは、現状の評価と、課題の分析の評価と、今後の取り組みが書けているかということに対して小項目の評価をしていた。それを評価するときに男女共同参画の視点から取り組んでいるかということ

で評価をしていただいていたが、その視点にとらわれ過ぎて、誤解や勘違いが生じて、そこのやりづらさがあった。統一的な視点が設けられるのかなというところがあって、もし視点を設けるのでも各取り組みの方向ごとに何か視点をつくったりしなければいけないのかなとは思ったが、それは厳しいので、取り組みの方向のところにきちんと文章で書いておこう、それを視点にかえようということで考えていた。

委員：あと、評価のあり方の最初か何かは、評価基準のようなものが何か1個あったほうがよいと思う。この形を狙ったというのは例えば、「男性やシニアが参加しやすい環境づくり」という方向性に対して、生活文化課と介護福祉課と子育て支援課と生涯学習課と4つ絡んでいる。そして、報告を書く際にはその4つの課が、何かこう会議を持ったりして、この方向性に対して各課が1つになって書くというような。そういうことを想定してのことか。

事務局：そこは難しいので、紙面で見てもらって、まずは同じことに対して寄与するような事業をやっている課に見てもらおうようなことを意図している。本当はこの様式1、様式2、様式3を横に並べて、A3ぐらいで小さい字でかけば、多分、全部を横一列にできるが、見づらいのでわけた形。

会長：きつと、やってみたら今までと違って、またすごく難しいことはあると思うが、とりあえず進めてみては。おもしろいかもしれない。他にあれば。

委員：取り組みの方向性で評価をしないということか。いろいろな課の評価はするけれども、取り組みの方向性としては評価しないと。

委員：取り組みの方向単位のコメント欄みたいなのはあってもいいかもしれない。もうちょっと連携を図ってとか、この課はもう少し頑張るとか、そういうことを書ける欄はあってもいいかもしれない。

委員：取り組みの方向性でまとめることによって、またいでいる課がそれぞれどういうことをやっているかというのが、別の課が気づくことによって連携が生まれるということか。

会長：それで横並び意識にも火がついて頑張ってくれるといいが。

～資料4-1 読み上げ～

会長：少し評価については書き直しいただくことが多いですが、何か意見、修正点等あればお願いしたい。

委員：3の評価概要について、実際我々はいいいところがあれば担当課を評価している。やはり、その担当課を評価するという文言を入れてもいいのかなと思う。

会長：やはり当市の会議の一番特徴は、担当課を評価して、いいところを表彰でほめているというところ。

委員：評価は、我々、一生懸命するし、頑張っているものに対しては表彰

を行う、というような文言があってもいいかなということか。

委員：同じく3の評価概要の(2)評価の流れについて、評価後のフィードバックから提言を踏まえて事業の改善まで書かれているので、「評価とその後の流れ」になるのではないか。先ほどの表彰も入れてもよいかと思う。

会長：表彰も定着してきたので、書いてもよいかもしいない。

事務局：これで文章を直してみたいと思う。

・議題(3) その他について

事務局：清瀬市と西東京市と一緒に取り組んだ3市連携事業が先日終わったので、記録集を今回配布している。一連の事業の最後に行われたパネルディスカッションには名取会長にもコーディネーターとして参加いただいた。

会長：防災トイレを実際に試してみるなど具体的で面白いものだった。また、参加者の中に聴覚に障害のある方もいて、災害時の切実な声を直接聞くこともできた

事務局：今回は障害福祉課の協力で、東久留米市の会場では手話通訳者をつけることができた。なので、グループワークにも聴覚に障害のある方も一緒に入ってもらうことができた。

会長：なかなか気がつかないような提言を聞くことができた。是非そのような提言を生かして、防災に役立てていただきたいと思う。